



目録を手渡す佐々木さん（左）

「牛瀧愛祭会」が母校へ恩返し

牛瀧町の「牛瀧愛祭会（工藤悟会長）」が8月22日、牛瀧小学校（山本真規子校長）へ寄付金2万円と、同校の全校生徒48人へ500円分の図書カードを贈りました。

同会は地元の青年有志23人で構成され、「地域の想いを未来に継ぐ」をテーマに、6年前から宵宮の実施など伝統行事を継承する活動を展開。その活動の成果を、閉校を迎える母校への恩返しとして、また未来を担う児童たちへのエールとして贈ったものです。

同会初代会長・佐々木昭寿さんは「地域の元気と子どもたちの笑顔のためになれば」と話し、山本校長は「閉校記念事業などで大切にに使わせていただきます」と感謝していました。

車力中柔道部の工藤大和君が全国大会で3位

第47回全国中学校柔道大会男子個人戦（8月20日）60kg級で3位入賞を果たした車力中柔道部の工藤大和君（3年）が9月1日、市役所を訪れ福島市長に喜びを報告しました。

大会初戦は「緊張で自分の柔道が出来なかった」と語った工藤君でしたが、見事大内刈り1本で勝ち上がると、その後は試合を重ねるごとに調子を上げ、準決勝へ進出。惜しくも敗れましたが、全国大会での3位入賞は近年にない快挙で、価値ある入賞となりました。工藤君は「全国大会で初めて入賞できてうれしい」と報告。福島市長は「全国3位は素晴らしい成績。今後も自分を高める努力を続けて、4年後の東京オリンピック目指してがんばってほしい」と更なる活躍に期待していました。



全国3位の喜びを報告した工藤大和君（右）



写真前列左から川村萌花さん、小山内陽和さん、太田優花さん
後列左から敢闘賞の木村朱里さん、木村光太郎君、尾野裕介君

明るく楽しいまちづくりへの思いを熱弁

第64回つがる市少年防犯弁論大会が9月1日、森田中学校（高橋幸治校長）で行われ、市内5中学校の11人が社会の一員として明るく楽しい社会をつくらうというテーマのもと、学校生活や家族について、自分の思いを堂々と発表しました。審査の結果、1位に輝いたのは「もっとつながるために」と題して発表した小山内陽和さん（稲垣中3年）。考えるきっかけとなったのはホームステイでの体験で、「会話がうまくいなくても、伝えたいという前向きな気持ちでコミュニケーションの基盤。相手とつながろうとする強い意志、国や人種を越えた人間としての優しさが会話のあるべき姿」と力説しました。2位には川村萌花さん（森田中2年）、3位には太田優花さん（森田中3年）が選ばれました。

熱い思いを英語で語る 西北中学校英語弁論大会

第3回西北中学校英語弁論大会が9月2日、松の館で開催され、西北五地域の19校56人が出場しました。大会は暗唱の部と創作の部に分かれて行われ、生徒たちは豊かな表情で堂々とスピーチ。審査の結果、3年創作の部で1位に輝いた稲垣中の佐々木真央さんが、9月29日に弘前市で開催される県大会へ切符を手に入れました（暗唱の部代表は五一中3年・三上明保さん）。佐々木さんは「A Job To Connect Lives（命をつなぐ仕事）」と題して、高齢化が進む第1次産業を若い世代が盛り上げなければならないという思いを、自身の体験を交えて訴えました。県大会に向けて佐々木さんは「自分が何を伝えたいのか」をしっかりと意識してがんばりたい」と抱負を述べていました。



3年創作の部で1位に輝いた佐々木真央さん

神ミツエさん小寺きねさん100歳おめでとう

大正5年生まれの神ミツエさん（木造福原）と小寺きねさん（富落町）が満100歳を迎えられ、市から顕彰状と記念品が贈られました。神さんは子ども7人を育て、孫17人、ひ孫29人に恵まれました。入居しているグループホーム白寿で行われた顕彰式では、駆け付けた家族や入居者らが祝福。神さんは、満面の笑みで万歳し喜んでいました。

グループホーム清里に入居している小寺さんは子ども5人、孫8人、ひ孫7人。長男が中学生の頃に夫を亡くし、農業をしながら子どもたちを育てたそうです。「好きなことをして過ごすのが長生きの秘訣」と話す小寺さん。この日も歩行器を使ってしっかり歩き、元気な姿を見せてくれました。



神ミツエさん



小寺きねさん



顕彰状を受けるダイヤモンド婚の佐藤夫妻

ご長寿夫婦の節目を祝う つがる市福祉顕彰式

つがる市福祉顕彰式が9月6日、松の館で行われ、苦楽とともに長年連れ添った夫婦の節目を祝いました。今年市より顕彰されたのは、ダイヤモンド婚夫婦（結婚60周年）7組、金婚夫婦（結婚50周年）20組。式では福島市長が「日本の進展に大きな貢献をされたことに対し、心から感謝します。今後も長年培った豊富な経験を活かし、市の発展のためご協力をお願いします」と述べました。また、ともに88歳以上の夫婦22組に対し、西北地域県民局の小山内陽子地域健康福祉部長が県知事顕彰を行いました。式典後には、かしわこども園の園児がアトラクションを披露。出席した夫婦らは、元気な園児の姿に笑顔で拍手を送っていました。

地域を見守りながら気持ちいい汗を流す

地域の安全を見守りながらウォーキングを楽しもうと9月10日、むらおこし拠点館フラット周辺で「地域安全ウォーキングin車力」が開催されました。さわやかな秋晴れの下、県内各地から約230人が参加。5㎞、9㎞、15㎞のコースに分かれてスタートし、稲穂が揺れる黄金色の景色などを楽しみながらゴールを目指しました。弘前市から親子3人で参加したという奈良圭介君（中学2年）は「歩くのが好きで各地のウォーキング大会に参加している。今日は自然の中で天気も風も気持ち良くて楽しかった」と話していました。ウォーク終了後は、砂丘麦とろ飯としじみ汁などの振る舞いや地元野菜などが当たるお楽しみ抽選会が行われ、参加者は楽しい1日を過ごしました。



地域の安全を呼び掛けながらスタートする参加者



誓いの言葉を述べる館岡子ども交通指導隊

市民一人ひとりが命を守る意識を

秋の全国交通安全運動に伴い、9月16日、つがる市交通安全のつどいがイオンモールつがる柏で行われました。つどいには、市民ら約150人が参加。9月13日に下車力町で発生した交通事故を受け、つがる警察署の小坂一男署長が「悲惨な事故を二度と起こさないよう、各ドライバーは命を預かっているという自覚を持って、交通ルールを守ってください」とあいさつしました。続いて、つがる地区交通安全協会の片山徳明会長が、地域一体となった交通安全対策の重要性を訴える県知事らのメッセージを佐藤副市長に伝達。また、もりた保育園子ども交通指導隊、館岡子ども交通指導隊、柴田子ども交通指導隊が元気よく交通安全誓いの言葉を述べました。